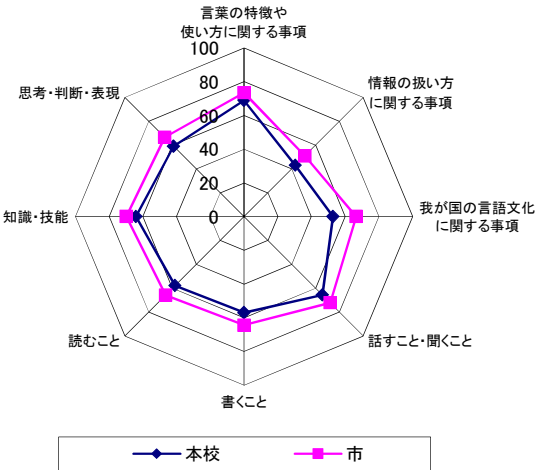


宇都宮市立田原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.9	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	43.1	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	52.8	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	65.7	72.3	73.7
	書くこと	56.9	64.3	66.6
	読むこと	57.9	65.8	64.9
観点別	知識・技能	64.1	69.8	70.8
	思考・判断・表現	59.1	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

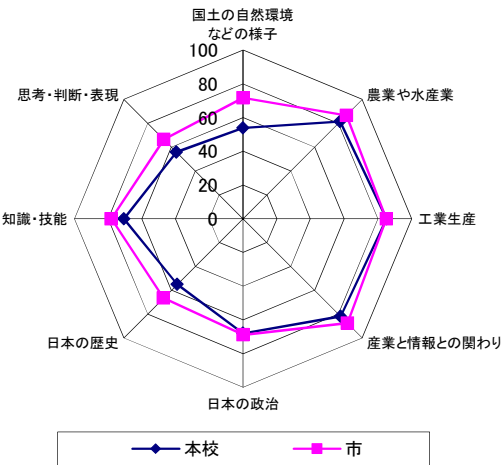
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市よりも低い。 ○2段落構成で文章を書く設問の正答率は市よりやや高い。 ●漢字を読むことについての正答率は8割から9割と高めではあるが、市の平均よりは低い。書くことについては、正答率が9割近いものもあるが、6割に満たない漢字もあり市の平均よりも低い。敬語について理解し、正しく使えるかに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく読んだり書いたりする練習や、漢字ミニテストの機会を増やし、漢字の習得を図る。 ・授業において正しい敬語の使い方の指導を行う。また、授業だけでなく日常生活において周囲の大人への話し方で敬語を使うよう指導し、意識させて生活させることで定着を図る。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市よりも低い。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書くことが、全国の平均よりもやや高い。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を、整理することに課題が見られる。	・児童が興味をもって読めるような説明文を学級文庫に配架するなど、文章から情報を得る環境を充実させる。また、必要な情報を選んで整理したり、その情報をもとに文章を書いたりする活動を充実させる。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市よりも低い。 ●語句の由来に関心をもち、和語・漢語・外来語について理解しているかどうかの設問の正答率が低い。	・和語・漢語・外来語について、その成り立ちや由来に関心をもち、授業において言語活動を充実させたり、読書教材を充実させたりする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市よりも低い。 ○インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉える設問の正答率が高い。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかどうかの設問の正答率が低い。	・話し合う場の設定だけでなく、話し手の発言内容の意図を考えながら聞くなど、聞き方のポイントを明確にしながら、教師の説明や友達の発表、教材文等を聞く活動を日常的に取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市よりも低い。 ○自分の意見とその理由を明確に、書くことができている。 ●指定された長さで文章を書くことや、予想される反論とそれに対する自分の考えを具体的に書くことに課題が見られる。	・体験や見たり聞いたりしたことを交えて理由を書く学習を積み重ねていく。 ・普段から、様々な構成条件を課した作文を書かせる活動を取り入れることで、条件に沿った自分の意見を記述できるようにする。
読むこと	平均正答率は、市よりも低い。 ●情報と情報との関係について理解し文章の情報を整理することに課題が見られる。	・文章の構成を考えながら読んだり、要旨を捉える練習を積み重ねたりすることで、内容を理解させるように指導をしていく。

宇都宮市立田原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	53.9	71.6	69.6
	農業や水産業	81.5	86.7	83.7
	工業生産	85.2	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	81.9	87.7	77.4
	日本の政治	68.1	68.9	71.7
	日本の歴史	55.2	66.7	66.3
観点別	知識・技能	70.6	78.0	76.7
	思考・判断・表現	55.9	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

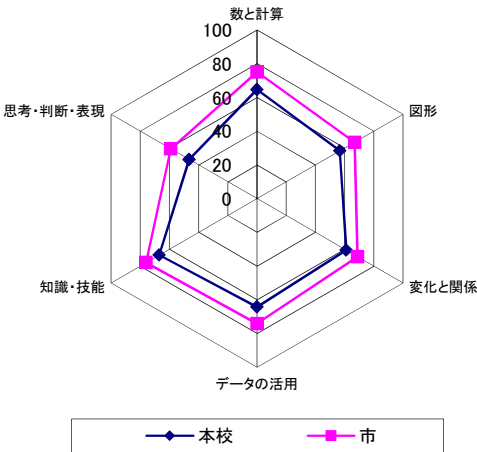
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率が、市の平均よりも低い。 ●日本の周辺の海洋名についてや、日本の地形（湖）についてまだ理解が不足している。国土の構成について、地図をもとに考えることに課題がある。	・日本の国土の地形の名称やその位置、世界の中の他国の位置や海洋名について、地図帳やワークシートなどを積極的に活用し、基礎的な内容の定着を図る。
農業や水産業	平均正答率が、市の平均よりも低い。 ○米の生産が盛んな地域についての設問の正答率は若干高い。 ●日本の水産業の消費者のところへ届くまでの流通の工夫についての理解に課題がある。	・図解やイラストで分かりやすく説明し、児童の理解を助けるだけでなく、興味関心を引き出していく。ICTを活用した教材を効果的に利用し、水産業の流通に関するクイズやゲームを取り入れ、楽しく学習できるようにしていく。
工業生産	平均正答率が、市の平均と同程度であった。 ○自動車の製造工程や工業製品の分類においては理解している。 ●日本の工業の特色についての理解に課題がある。	・日本の輸出品・輸入品の特色について理解を深めるため、既習事項である日本の農業生産や工業生産について振り返りながら写真や統計資料を丁寧に読み取り理解を深めていく。
産業と情報との関わり	平均正答率が、市の平均よりも低い。 ●国内の林業が抱える課題や沖縄県での自然環境の取組について答える設問の正答率が、市の平均よりも低い。	・林業の衰退、後継者不足、高齢化、輸入木材との競争など、具体的なデータや事例を用いて説明していき理解を深めていく。 ・沖縄の自然環境が抱える課題(さんごしょうの白化、赤土汚染など)について、具体的な事例を挙げながら説明していき理解を深めていく。
日本の政治	平均正答率が、市の平均よりもやや低い。 ○内閣の動きについての設問の正答率は市よりも高い。 ●国民と国会と内閣の関係についての設問の正答率は市よりも低い。国会の働きについて理解が不足している。	・議会政治の仕組みや役割を図解や動画を用いて分かりやすく解説し、理解できるよう指導していく。 ・法律ができるまでの流れや、内閣総理大臣の選出方法など、具体的な例を用いて説明することで、児童の理解を深めていく。
日本の歴史	平均正答率が、市の平均よりも低い。 ●全体的に縄文時代から江戸時代についての理解は市よりも正答率が低いものが多い。鎖国について答える設問の正答率が市よりも大きく低く、理解に課題がある。	・文化や政策、歴史的な出来事を人々の思いや前後の因果関係を併せ、現代日本とのつながりを意識して理解できるよう指導をしていく。

宇都宮市立田原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.7	75.1	75.8
	図形	56.7	66.8	68.3
	変化と関係	61.1	68.8	65.0
	データの活用	64.3	74.1	63.6
観点別	知識・技能	67.0	76.1	75.8
	思考・判断・表現	46.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

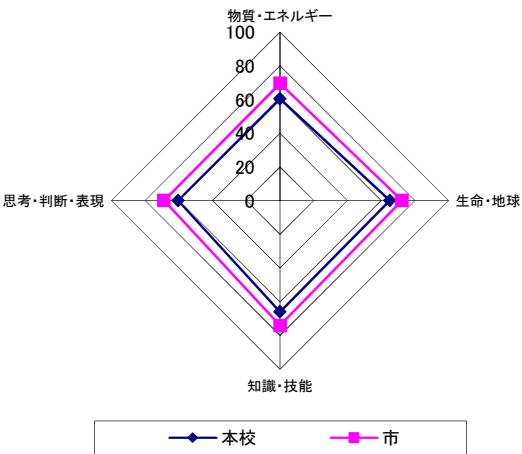
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が、市の平均より低い。 ○分数×分数(約分あり)の計算の正答率は、市の平均より高い。 ●図を見て、小数倍の文章問題(純小数倍、比較量を求める)を解くための立式をする問題の正答率は、市の平均より低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習事項の復習・基本的な計算の定着に向けた指導を今後とも継続していく。 ・小数の乗法の意味や計算の仕方については、整数の計算における既習事項や十進法のしくみなどを活用して理解させるようにしていく。 ・計算ドリル、個人用端末などを活用し、小数の計算などに取り組ませるようにしていく。
図形	平均正答率が、市の平均より低い。 ○合同な三角形を作図する問題の正答率は、市の平均より高い。 ●角柱の体積を求める問題の正答率は、市の平均より低い。	・各学年で学習する図形の用語や面積の公式を確実に覚え、適切に用いて説明ができるように、繰り返し指導していく。 ・角柱や円柱の体積を求める公式を導くまでの過程を重視し、底面積×高さの式の意味について、式をよんだり図に表したりする活動を通して理解できるようにしていく。
変化と関係	平均正答率が、市の平均より低い。 ○表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する問題の正答率は、市の平均より高い。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題の正答率は、市の平均より低い。	・該当学年のみならず前学年の計算ドリルを使って練習問題に挑戦させたり、個人用端末などを活用させたりして、速さや割合などの単位量あたりの大きさの意味や表し方についての基本的な理解の定着に向けた指導を継続していく。 ・割合の意味と表し方、割合＝比較量÷基準量の関係を理解できるよう、具体的にどんな場面で活用されるか実感をもって捉えられるようにしていく。
データの活用	平均正答率が、市の平均より低い。 ○円グラフを読み取る問題の正答率は、市の平均より高い。 ●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題の正答率は、市の平均より低い。	・計算ドリル、個人用端末などを活用し、基本的な計算の定着に向けた指導を今後とも継続していく。 ・実際に歩測によって長さを調べる活動を取り入れ、測定値を平均する目的や方法を理解できるようにしていく。

宇都宮市立田原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.4	69.5	65.2
	生命・地球	65.1	72.3	70.1
観点別	知識・技能	66.0	74.0	70.7
	思考・判断・表現	60.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率が、市よりも低い。 ○乾電池2個を使って電磁石のはたらきを強くするつなぎ方を作図する問題の正答率が市よりも高い。乾電池のつなぎ方と電流の強さについて理解している。 ●ふりこのきまりについての設問の正答率が、市よりも低い。ふりこが1往復する時間はふりこの長さとの関係していることや、実験器具の正しい使い方に対する理解に課題が見られる。また、水溶液の性質についての理解に課題が見られる。	・課題を明確にして予想をすることや主体的に実験を行うことを通して、理解を深めていくことを継続していく。 ・実験器具の操作について、単元によって理解の仕方に差があるため、グループで学習するときにも必ず全員が実験器具を操作する場面を設定したり、正しい使い方を授業の中で確認したりして理解が深まるように支援していく。 ・実験を通して分かったことを丁寧に考察し、実感を伴う理解を深め、知識の定着を図っていく。
生命・地球	平均正答率が、市よりも低い。 ○流れる水の量が増えたときの水の速さの変わり方を問う設問に対する正答率が市よりも高い。流れる水の性質について正しく理解している。 ●植物のつくりとはたらきについて、予想が正しかった場合の結果を問う設問に対する正答率が市よりも低い。	・実験を行う際には、結果から明らかになることが何かを確認するとともに、予想をさせて自分の考えをもたせ、予想と結果の比較から理解が深まるようにしていく。 ・理科の学習だけでなく、家庭科や学級活動など、他の教科とも関連付けながら、理科が生活と密接に関係していることを捉えさせるようにしていく。

宇都宮市立田原小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・単元・授業計画を綿密に行い、実施する。 ・児童自ら主体的に取り組む学習活動を意図的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。」や、「自分の考えを、根拠を挙げながら話すことができる。」の設問に対する肯定的割合が下回る学年があるので、次年度以降の課題となる。
教員の授業力と児童の学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教師全員が研究授業を行う。 ・朝の基礎学習の時間を適切に実施したり、家庭学習強化週間を実施したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項が身に付いていないために、どの教科においても市の平均を大きく下回る学年があったため、基礎的内容の学習を更に強化する必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

4年生のとちぎっ子学習状況調査では、国語、算数、理科ともに県・市の平均を下回る結果であった。5年生のとちぎっ子学習状況調査では、国語、算数、理科ともに県・市の平均と同程度の結果であった。6年生の全国学力・学習状況調査及び学習内容定着度調査では、どの教科も国・県・市の平均を下回る結果であった。

算数の課題として、今年度の4年生の算数において県・市の平均を大きく下回っており、基礎基本の定着が不足していることが考えられる。学年が上がるにつれ、既習事項を使いながら更に難しい内容の学習に取り組んでいくため、次年度は、学校全体として朝の基礎学習で100マス足し算や100マスかけ算を繰り返し行うことで計算力を高めたり、単元末や学期末、学年末には補充の時間を設けたりして、低学年から基礎学力が確実に定着できるようにする。